

令和6年度第10回定例  
松本市教育委員会会議録

松本市教育委員会

## 令和6年度第10回定例松本市教育委員会会議録

令和6年度第10回定例松本市教育委員会が令和7年1月30日午後3時00分教育委員室に招集された。

---

令和7年1月30日（木）

---

### 議 事 日 程

令和7年1月30日午後3時00分開議

第1 開 会

第2 教育長挨拶

第3 議 事

#### [議案]

- 第1号 松本市梓川生涯学習事業基金条例の廃止について
- 第2号 指導上の措置について【非公開】

#### [報告]

- 第1号 部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査の結果について

#### [周知]

- 1 「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」の開催について
- 2 「発掘された松本2024」の開催について

#### [その他]

〔出席委員〕

教 育 長	伊 佐 治 裕 子
教育長職務代理者	小 柳 廣 幸
教 育 委 員	佐 藤 佳 子
//	春 原 啓 子
//	福 澤 崇 浩

〔出席職員〕

教 育 次 長	赤 羽 志 穂
教 育 監	坂 口 俊 樹
教 育 政 策 課 長	小 西 え み
生涯学習課長 兼	
中央公民館長	廣 田 圭 男
文 化 財 課 長	田多井 用 章
部活動地域移行	
市総括コーディネーター	幅 誠一郎

〔事務局〕

教育政策課	
教育政策担当係長	伏 見 宏 美
教育政策担当係長	降 箆 基

《開会宣言》 午後3時00分

伊佐治教育長は令和6年度第10回定例松本市教育委員会の開会を宣言した。

教育長 先日はリーディングスクール・フェスにご出席いただき、ありがとうございます。リーディングスクールの取組みは2年目になりますが、各校の先生が、自分の学校での教育実践について、子どもを中心に生きいきと語りながら堂々と発表していらっしゃる姿が、とても印象的でした。

特に、私が印象に残ったのが、自由進度学習で試行錯誤を繰り返しながら、子どもたちの興味や関心に基づいて授業を組み立てている様子です。

明善小学校は以前から幼保連携に力を入れてきましたが、その取組みを本格的に始めたときの1年生が、今4年生になっていて、その4年生の理科の授業の様子を動画で見させていただきました。理科の実験について先生がテーマを提示して、教科書に基づいて自分たちでやってみようと、子どもたちに任せましたら、子どもたちはそれぞれバラバラに動いているように見えるのですが、みんなが目的を持ってきちんと動いて学んでいる様子が見てとれました。動画を見る限り、みんな自由に動いているけれど、みんなが目的を持って学んでいる様子が見えて、幼い頃から自分の興味関心に基づいて学びを組み立てていくことに慣れている子どもたちなのだなど改めて感じ、とても頼もしさを感じました。

現在、ウェルビーイング実践校TOCO-TONについて、それぞれの地域で説明会を行っています。昨日は安曇小中学校、今週月曜日は大野川小中学校に行き、地域の方から率直なご質問をいただく中で、「そういった自由な学びで基礎学力は付くのか?」「高校受験、大学受験は大丈夫なのか?」という質問がありました。やはり旧来の学びのスタイルに慣れている世代の保護者は、そういった授業スタイルでないと基礎学力が付かないとあっていらっしゃる方もいるので、丁寧に説明しながら理解を深めていただいて、協力していただくことが欠かせないと改めて感じたところです。

それでは、11月に開催しました第8回定例教育委員会の会議録について、あらかじめご覧いただいたと思いますが、承認ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長           ありがとうございます。

《署名委員の指名》

教育長           本日の会議録の署名委員ですが、春原委員、福澤委員にお願いいたします。

                  本日の案件は、議案2件、報告1件、周知2件ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、人事に関する事件、その他の事件について出席者の3分の2以上の多数で議決したときは、公開しないことができると規定されています。議案第2号は個人情報を含むため、非公開にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

                  （「異議なし」の声あり）

教育長           それでは、議案第2号については、最後に協議をしたいと思います。

<議案第1号> 松本市梓川生涯学習事業基金条例の廃止について

教育政策課長   説明

教育長           ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見ありますでしょうか。

小柳委員       例えば、一つの項目を取り上げるとして、平成29年にこの基金を取り崩したアカデミア館空調及び排水設備改修工事についてみてみますと、この工事は取り崩した基金だけで完結しているのでしょうか。それとも、ほかの財源も入っているのでしょうか。質問としては、以前にも取り崩して完結する例があったとすれば、なぜ今、この時期にこの条例を廃止するのかをお聞きしたいです。

教育政策課長   今回、梓川体育館の大規模改修工事でこの基金を全部取り崩すということは財政課の判断で、財政課の指示に従っております。これまでも、どの程度基金を取り崩して充当するかは、財政課と担当課で判断してきたものと思います。

教育長           事業の担当課ではないので、それぞれの事業の財源の内訳は、教育政策課では分かりかねるということだと思います。

                  ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

                  それでは、議案第1号については、承認ということによろしいでしょうか。

                  （「異議なし」の声あり）

<報告第1号> 部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査の結果について

- 教育監 説明
- 教育長 ご質問、ご意見をお願いします。
- 私が今回一番印象深かったのは、保護者が家から活動場所までの送迎を心配する声が一番大きくなっていることです。これは先日、市PTA連合会の方たちと意見交換をしたときにも出た意見だったかと思います。部活動の地域移行が実際に動き始めて、自分の生活に落とし込んだときに心配になってきているということかなと思います。
- もう一つ印象深かったのは、特に専門ではない先生が中心だと思いますが、部活動指導を負担に感じている方の割合が増えてきたことです。特に休日の大会等は、報酬があっても関わることは避けたいと答えていらっしゃる方が多いことも印象的でした。
- 福澤委員 負担と感じている先生たちが7～8割いて、まだ地域クラブの数が少なく、移動に時間や費用がかかるような状況もある中で、移行に向けてペースを上げていく手法があるのかどうか。特に文化系では、吹奏楽をやりたい子が多いことがアンケート結果で出ている中で、どこでやるのかなども、ある程度、道を示してあげないと迷ってしまうかなという気はしました。
- 教育長 確かに文化系の吹奏楽は希望者も多いですが、楽器を伴う活動なので、文化観光部の文化振興課が顧問などの先生に聞取りを進めて、具体的な方策を組み立ててくれている最中です。
- 春原委員 この調査の実施には、大変な労力が必要だったと思います。ここまできちんと小中学生や教員に調査している地域は聞いたことがないです。本当にありがとうございます。
- 結果を見ますと、教員も子どもたちもあまりやりたくない、または良い条件や環境があればやるという正直な回答だと思います。
- 例えば、クラブへ行くとなると交通費や時間もかかることを考えると、学校の施設を自由に使わせてあげる環境をつくってやれば、もっと楽しめるのではないのでしょうか。各公立小中学校は、夜間に使いたい組織もあって、学校は貸与していると聞いていますが、その辺との兼ね合いで、学校で先生方に面倒を見てもらえなくても、自分たちが楽しめる部分も生かしてあげれば、少し違うかなと思っています。

松本市は計画どおりに進んできていると思います。部活動地域移行の検討協議会をつくってきていますので、子どもが主人公ということを考えると、もう少し、子どもたちに途中経過や進捗状況を説明しながら進めていければ、子どもたちも焦らず、やりたいものが生かしていけると感じると思います。

教育監

小学校6年生は、令和8年度以降、休日部活動がなくなる状況に置かれる子どもたちになるので、その意識調査としてアンケートを実施させてもらっています。

下校までの間、使わせてあげるという方法も確かにあると思いますが、一旦学校生活と区切りをつけるところがないと、子どもたちも別のクラブや中学校などへ行って活動しにくいと思います。そういうマッチングや整備をしていくことが、これからもっと求められるところだと思います。

先ほど福澤委員からもお話がありましたが、部活動としてやっていた活動や曜日・時間帯を、そのまま地域クラブでも受け持たなければいけないという誤解があるのではないかと思いますので、そこはさらに周知をしていかなければいけないところだと思います。

今までは同調圧力で部活に入らざるを得ず、みんなが毎日活動するので仕方なく毎日参加していた子も相当数いるのではないかと思います。平日は週3日で十分、休日もどちらか1日は休みたいという、子どもたちの希望に沿ったクラブのあり方を考えていかなければいけないと思います。

週3日なら、こういうクラブがここで立ち上がっている、ということを紹介しながら、子どもたちは自分の生活をどうデザインしていくか。一つのスポーツを平日も休日もやらなければいけないということは一切ないので、平日はサッカーをやるけど休日は吹奏楽をやりたいという子がいてもいいでしょうし、日替わりでもいいですし、そういう多様な選択肢をどれだけ用意できるかということかなと思っています。

春原委員

確かに、1週間に1～2回でいいという子もいれば、技術を高めたいという子もいて、さまざまだと思います。嫌なことを無理してやらせることはあり得ないと思います。

この前、県の動向を見たときに、部活動の移行に向けた取組みを、当事者となる中学生や保護者は認知していませんでした。休日の部活動地域移行についての認知度は、中学生60%、小学生70%、保護者45%、教員19%が知

らないというところからスタートしています。地域移行は、理解や協力をしていただかないと成り立っていかないと考えられますので、県では企業や大学に協力してもらって、指導してくださる方を募集している動きもあるようです。何とか協力して、子どもたちの意向に沿うようにしてあげる方向で、なだらかに穏やかにバックアップしてあげたいと思います。

教育長 各学校を回ってくださっている幅先生から、今の子どもたちや学校の実態について何かありますか。

部活動地域移行市総括コーディネーター このアンケート結果を見ると、子どもたちも先生方も保護者も、本音に近いものが出てきていると思います。保護者にとっての一番の問題は送迎とはっきりしました。子どもたちは意外と、お金のかからないところに行きたいと心配しています。いろいろな学校を回っていると、だんだん間近に迫ってきたので、保護者の方は具体的にどうしようという悩みが、いよいよ生まれてきたという感じです。

「〇〇中学校の〇〇部をどう移行するか」という発想が捨てられない方もいらっしゃると思いますが、「〇〇地域に〇〇クラブができたので集まれ」と言って人が集まってくる流れが、それぞれの地区で出てきています。その主体は、保護者会もあれば指導者もあります。そういう固まりを、これからまつチャレに登録してもらって宣伝して、それぞれの子どもたちが選んでいけばいいかなと思います。まつチャレの様子を見ていると、今までの部活動にあったバスケ、バレー、野球などだけではなく、書道やラグビー、健康マージャンなど、学校でやっていなかった選択肢も広がっています。だんだん時間が迫ってきたので、ペースアップをしていきたいなと思っています。

教育長 今の皆さんのお話を聞いていて改めて思ったのですが、やはり当事者になる子どもたちが、どういうことを疑問に思っていて、どういうふうにしたいのか。実際に中学生と話をして、部活動が変わっていくことについてどう捉えているのか、話をしてみてもいいかもしれないなと思いました。

先日、全く違う会で中学生と少しディスカッションをしたら、部活動地域移行についてやはりイメージができなくて、今まで学校で気軽に参加できと思っていたものができなくなるようなイメージをみんな漠然と持っていると言っていました。今まで学校でやるのが当たり前とされていた中学生が、いきな

り「これだけ選択肢があるから、自分で選んでいい」と言われたら、子どもたちにとってはギャップがあり、発想の転換が難しいことも考えられますので、子どもたちに対しての説明会などをやってみるのもいいかもしれません。

そして、まつチャレに入らないクラブもあります。練習時間など、まつチャレになるための条件をクリアできないところは、まつチャレではない選択肢としてリストアップしてありますので、そういうものを子どもたちに提示して、子どもたちが自由に選べるように、事務局でも一生懸命考えてくれていますので、それを引き出せば少し変わってくるかなと思っています。

春原委員 いろいろな課題があっても、とてもよく動いているなども感じます。子どもたちの意に沿った活動ができていく、幅を広げてあげられるという部分では、良いのではないかと思います。

教育長 ただ、子どもたちは、選んでよいと言われても、お金がかかるなら親に迷惑を掛けてしまうと思っていることも透けて見えるので、そこは課題だと思います。今まで教員に無償で支えられていたものを外に出せば、経費がかかることは当たり前のことなので、そこがネックになるかなと思いました。

小柳委員 今まで、中学校によっては、生徒がやりたい部活動がないのにやむなく入ることもありました。しかし、この移行によって、今までなかった種目も加わって、選択できる種目が増えたという意味では、子どもたちの選択の幅が広がっている良さを感じています。

一方で、選択はできるけど受け皿がないとか、送り迎えに不安があるとか、中学生の意識とか、経費などの問題もいろいろあって大変だと思うのですが、着々と進んできているので、できるだけのことをしてスタートしてほしいと思っています。

指導者の確保については、企業や大学にも声をかけたり、場所については、特に、楽都松本としてやがて「松本市吹奏楽館」を建ててしまうことなども含めて、何とか地域を受け皿にしてもらいたいという思いです。

ただ、独占していたものを解放したとき引き受け手の手が挙がるのは、利益が見込めるからですが、この活動はそういうことがないので、地域の方々の善意や意欲、地域の子どもは地域で育てるという理念に頼るしかないところが厳しいところではあると思います。でも、何とか進んでいってほしい、後戻

りをしないでもらいたいと思っています。

教育長

学校の教職員の意識を見ていると、もう絶対後戻りはできないですね。これは本当に、中学校の働き方改革の総本山だと思います。

今、公民館でもいろいろな居場所づくりを進めていますので、居場所の中で、子どもたちが自主的にグループ活動に参加するなど、公民館を活用してできればとても良いかなと感じています。

佐藤委員

調査結果を見ても、保護者は「参加するかどうかを子どもが決められるようにしてほしい」とか、子どもたちも「楽しむことを大切にしてほしい」とあります。難しいことかもしれませんが、子どもを真ん中に、主体性を持って、保護者と子どもと一緒に考えて決めるチャンスかなと思います。

私の子どもは19歳と17歳で、中学生の頃は、それぞれ卓球とバスケットに入っていました。やりたかったテニスが学校になかったので、日曜日には地域でテニスを教えてくれるところに入っていました。毎週末のように練習試合で、朝7時ぐらいに送って、その後、負けた時点で連絡が来るので、土曜日に働いている身としては厳しくて、友達のお母さんにお迎えをお願いして、ほとんど頼んでいたような3年間だったかなと思います。

なので、これから送迎で引っかかると思うのですが、これまでの部活動も送迎がなかったかといえば、市外に出る試合もかなりあったので、必ずしも今までと比べてマイナスとも言えないのかなというところなんです。一方で、強いチームをつくろう、勝とうとなってくると、例えば小学校からバスケットをやっている子どもたちが主要メンバーになり、そうでない子どもたちはなかなか出られないなどということが、どうしても出てきてしまって、それでバスケットが嫌いになる子どもが少数かもしれないですが出てきてしまう。そのときに、自分の力量で選べると、1つの選択肢にはなり得るのかなと思います。

随分前ですが、四賀の町会長をやっていた方から、四賀には野球部がないので、地域を超えて外の中学校に出ってしまったと聞いたことがあります。中学校は自分の学区で通い、その後、地域を超えて活動に参加できるような方法があれば、地域にとってもプラスになる部分もあるのかなと思いました。

最後に、地域でも、子どもたちが集まって、探究の延長のように、自分たちで主体的に「こんなことをみんなでやってみよう」みたいなものも場として認

められていくと、面白い活動になってくるのではないかなと思いました。

福澤委員　やはり、学校の部活動をそのまま地域に移行するというイメージでいる人が多いと思います。要は「部活動は習い事になる」という頭の切替えを、それぞれの家庭や保護者が持てれば少し変わるのかなと思います。

送迎については、やはり特に平日のハードルは高いです。子どものやりたいことをどうサポートするかは、自分の中でも良い方法や答えは見つからないので、そこだけは、保護者の皆さんを含めて、子どもたちにも早くヒントを出してあげられればいいかなという気はしているのですが、難しいですね。

春原委員　地域で子どもたちを育てていくという理念を加えながら、一つひとつクリアしていけば、子どもたちも考えていけるのではないかなと思います。

部活動地域移行市総括コーディネーター　今まで保護者や先生方には説明してきましたが、もっと地域・企業・一般の方々に知ってほしいということで、昨年1回、また今年2月1日にも、市民向けに部活動地域移行の説明会を開催する予定です。

教育政策課長　松本市公式YouTubeチャンネルでも、市長と教育政策課担当者による部活動地域移行についての対談を録画したところです。2月に前編と後編が公開になります。分かりやすく面白く編集されていますので、ぜひご覧いただければと思います。

教育長　ぜひ委員の皆様にもPRをご協力いただきたいと思います。

それでは、こちらについては、承認ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

<周知1>「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」の開催について

生涯学習課長　説明

教育長　ご質問はありますか。

よろしいですか。それでは充実させていただくようお願いします。

<周知2>「発掘された松本2024」の開催について

文化財課長　説明

教育長　ご質問、ご意見ありますか。

文化財課長　上條先生はお忙しい方なのですが、松本でならぜひということで、お気持ち

を持ってご講演いただきますので、非常に面白い講演になるのではないかと思います。ぜひお越しいただければと思います。

教育長            それでは公開の案件は全て終わりましたので、ここからは非公開とします。

<議案第2号> 指導上の措置について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

《閉会宣言》

伊佐治教育長は、令和6年度第10回松本市教育委員会を閉じる旨宣言した。

<午後5時05分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

伏見 宏美

会 議 録 署 名 委 員

福澤 崇浩

---

春原 啓子

---